

近代の紙幣と肖像

日本銀行金融研究所貨幣博物館 主任学芸員
関口 かをり

新しい紙幣の肖像 渋沢栄一と紙幣の歴史

2024年7月に20年ぶりに新しい日本銀行券が発行される。そのうち一万円券は40年ぶりに肖像が変わり、渋沢栄一（1840-1931）となる。

渋沢栄一（以下、栄一）が第一国立銀行の頭取となるまで、何回もお金の発行に深く携わった。この関わりを辿ると幕末から明治初期の紙幣の歴史が見えてくる。

栄一は、財政再建の使命を担い1864年から一橋家に仕えた。領地播磨の特産品である良質な木綿を集めて大坂に販売することを考え、播磨国今市村（現兵庫県高砂市）に「産物会所」を開設した。この「産物会所」を発行元として地域で使える紙幣「御産物木綿預手形」を発行。幕府発行の貨幣（正貨）との引換を円滑に行って紙幣への信用を高く維持し、額面割れすることなく流通したといわれる。こうして紙幣を活用したこの地域の経済活性化、財政再建は軌道に乗った。

日本の紙幣の歴史は17世紀初めから始まる。江戸幕府は紙幣を幕末まで発行せず、この今市村の紙幣のように各地域の領主などが発行元となり、地域限定で使える紙幣（主として「藩札」など）の歴史が、明治初期まで約270年続いた。その後全国で通用する紙幣が発行されるという歴史であり、古代から続く金属のお金の長い歴史と比べると、全国通用の紙幣の歴史は、まだ150年程度の歩みである。

明治初期：全国で使える紙幣の発行

栄一は1868年、静岡藩へ仕官した。この時期、新政府は日本最初の全国通用の紙幣「太政官札」（「両」単位の政府紙幣）を発行した。政府は経済振興を図って各藩へ政府紙幣の貸し付けを行い、栄一は、静岡藩へ貸し付けられた政府紙幣で米や肥料を購入した。

1869年末から栄一は明治政府へ仕官し、大隈重信らの下で新しい貨幣単位「円（圓）」を定める「新貨条例」（1871年公布）の立案に携わり、新しい「円」単位の貨幣と旧金銀貨や藩札との交換の実務的なルール作りに尽力した。また栄一は大蔵省で「国立銀行」（紙幣発行のできる民間銀行）の制度設計に携わり、1872年に国立銀行条例が制定された。栄一は間もなく政府を辞し、「第一国立銀行」の開業に力を注ぎ、1875年にはその頭取となった。

西南戦争の1877年から翌年に向け、政府紙幣と国立銀行紙幣の発行が増え、その後、紙幣の価値が下落した。政府内部では、紙幣の価値を安定させるため、紙幣を一元的に発行する中央銀行が必要であるとの議論が高まり、1882年に日本銀行を設立し、1885年に最初の日本銀行券が発行された。明治初期に発行された政府紙幣と国立銀行紙幣は徐々に回収され、1899年には無効となり紙幣は日本銀行券に統一された。

戦前～戦後：日本銀行券の肖像の変遷とその時代背景

最初の日本銀行券の図像は江戸時代の藩札などでも福の神として親しまれていた大黒像であった。しかし紙質に問題があったことや偽造紙幣の増加により、すぐに次期紙幣の検討に入った。欧米諸国では紙幣に「帝王・大統領・宰相・国家有功著顕者」（1887年7年大蔵省請願、以下同）の人物の肖像が導入されており、その理由は「人民ヲシテ愛敬心ヲ生セシムル」ことと、「彫刻上贋造シ難ク随テ其ノ真贋ヲ判別シ易キノ便」で、日本でも人物の肖像が採用されることとなった。1887年、日本武尊、武内宿禰、藤原鎌足、聖徳太子、和氣清麻呂、坂上田村麻呂、菅原道真の7名が、「贋造ニ難クシテ真贋ヲ識別シ易ク且本邦上古洪勲偉績アル人像」であるとしてその後の日本銀行券の肖像となることが定められた。第二次世界大戦までは、このうち坂上田村麻呂を除く6名が紙幣の肖像に度々採用されることとなった。

戦後しばらくは肖像の決定にGHQの事前承認が必要となり、一円券で予定されていた武内宿禰は軍国主義のシンボルとして変更を求められ、二宮尊徳となった。その次の日本銀行券の肖像は印刷局が候補として出した20名からGHQの承認、更なる選定を経て、聖徳太子、岩倉具視、板垣退助、高橋是清となった。戦前に紙幣の肖像であった者のうち、聖徳太子だけが戦後にも採用された。

おわりに 現在の肖像画の人物の選定

現在、日本銀行券の肖像や様式は財務大臣が決定している。紙幣の肖像となる人物選定に明確な基準はないが、近年は、偽造防止の観点から、なるべく精密な写真を入手できること、肖像彫刻の観点からみて、品格のある紙幣にふさわしい肖像であること、肖像の人物が広く知られ、その業績が広く認められていること、といった観点を踏まえて、明治以降の人物から採用されている。

新しいお札の肖像は栄一のほか、五千円券は津田梅子に、千円券は北里柴三郎になる。手にするまであと約8か月、3人の近代日本への功績などに思いを馳せる。



①国立銀行紙幣：十円
(1873年) 80×190ミリ
頭取 渋沢栄一と記されている。

②神功皇后が描かれた政府紙幣：一円
(1881年) 77×131ミリ



③最初の日本銀行券 十円
(1885年) 93×156ミリ



④人物の肖像（藤原鎌足）が描かれた日本銀行券：百円
(1891年) 130×210ミリ



⑤戦後の日本銀行券：一円
(1946年) 68×124ミリ
肖像は二宮尊徳



⑥戦後の日本銀行券：百円
(1946年) 93×162ミリ
肖像は聖徳太子



写真は実物の約60%の大きさ。①～④：日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵、⑤⑥：国立印刷局 お札と切手の博物館所蔵